

# 今日も「丁あがり」



第53話

農家の身体を支えるものづくりを！ の巻



高垣達郎（たかがき・たつろう）  
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロボストス代表取締役社長。

皆さん、こんにちは！ 真夜中に

GoogleEarthで酒蔵巡りをしているロボストス高垣でございます。さて、先月号からこのコラムに登場するすべての方を实名で記載するように改めました。気づかれた方はいらっしやいましたか？ 僕が製造業にのめり込んだきっかけは、4000社を超える町工場を訪ね歩いた現場主義学者・関満博先生（経営学者）との出会いでした。その関先生から読むように強く薦められたのが宮本常一さん（民俗学者）の本です。日本全国を自分の足で歩き庶民の生活を緻密に描き出す内容から圧倒的なりアルさが説得力を生むことを学んだ



写真1：窮屈な姿勢で中セキTJV895に乗る本多さん。腕を伸ばさないとハンドルに届かない



写真2：MF3080はテレスコが使えるので、無理のない姿勢で乗ることができる。腕の角度を測ってみたら130度。この位置関係に照準を合わせた！



写真3：身体にピッタリ合う位置にハンドルを調整した



写真4：ゆったりした姿勢で乗れるようになったTJV895。畦塗り、代かき、行ってらっしゃい！

## なぜテレスコ機能がない？

茨城県つくばみらい市の本多雄一さん（本多農園）から「腰痛がひどくて、トラクターのハンドル高さを変えて欲しい」と相談がありました

んですね。ふとそれを思い返して、僕も現場の困りごとに向き合う様と。そのままに書き残さねばならない。そうした作業を続けていくことで次世代の誰かに刺激を与えられなければ、このコラムを続ける意味がないと、気持ちを入れ直しました。ということ、今年も田植えシーズン到来！ コメ農家さんからの依頼をご紹介しますよ！

た。現場に向かうと腕をピンと伸ばして、とても窮屈そうにトラクターを運転されていました。本多さんは29歳と若いけれど50haもの面積を管理されていて、「この姿勢で代かきはさすがに地獄です」という悲鳴にも近い嘆きを聞けば、見過ごすことは絶対にできない！！

なぜ最近まで国産トラクターにテレスコ機能がなかったのでしょうか？ 身体のサイズには個人差があるわけですから昔から不具合を感じている方はいたはずですし、デザイナーに凝る前に耳を傾けるべき農家の声があるでしょう。本多さんにとってベストな姿勢を実現すべく、まず

マッセイファーガソンMF3080（テレスコ機能あり）を運転する際の腕の角度を計測しました。MFと同じ姿勢を保てるように、中セキTJV895用とヤンマーUS601用に部品を製作して、ハンドル高さを狙いどおりに調整完了！！

ステアリングは重要保安部品なので少し不安も抱えていましたが、今春に「運転がめちゃくちゃ楽になりました！ 本当に作ってもらったよかったです」と畦塗り作業中のトラクター内から電話があり、顔がニヤけてしまいましたね。お土産にいただいた「びりから風味」の美味しい本多農園謹製おかき（農協の直売所でも販売中！）の味が蘇ってきて、日本酒を呑みたくなってきました。こちらで書き終えて、今宵も酒蔵巡りに勤しみたいと思います（笑）。関満博&宮本常一に負けじと現場を訪ね、来月も根気強く取り組んでまいります。ということで！ 今月も一丁あがり〜♪♪♪